

佐野短期大学シラバス2013

| | | | | |
|--|--|--------------------------|-----------------------------------|------------------------|
| 科目名 Subject Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 保育内容表現 Contents of childcare (Expression) | | 2年 | 前期 | 月曜日・5時限 水曜日・3時限、5時限 |
| 単位数 | 授業の形態 | | 授業の性格 | |
| 1単位 | 演習 | | 選択 (保育士養成課程必修、教職課程必修(幼稚園教諭二種)) | |
| 当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目 | | | | |
| 保育内容総論 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 音楽表現ⅠⅡ、図画工作、体育実技 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス | |
| 石塚 将之 | 本館3階 | 水曜日、金曜日の9時から17時(授業時間を除く) | 授業中に指示します | |
| 授業の概要 | | | | |
| 感じたことや考えたことを自分なりに又は少人数でのグループ発表を通して豊かな感性や表現する力を養う。ただし保育する側の知識技能の向上のみに限らず、保育される側の受け止め方や感じ方、表現手段、そして保育者として指導し、助言し、共に行う事についても事例及び実践を通して学んでいく。 | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | |
| ①保育所保育指針、幼稚園教育要領における表現の「ねらい」について理解できるようにする。 ②領域「保育内容」と他領域との関係を理解できるようにする。 ③乳幼児の発達を「表現」の視点でとらえ、乳幼児の表現方法を判断できるようにする。 ④保育者が支える表現について理解を深め、保育者としてどのような支援ができるのか考えられるようにする。 ⑤「表現」をつくり出せるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 事例研究を行い、実践を繰り返かえて行う演習形式。 | | | | |
| 学習の成果 | | | | |
| 保育士養成課程、教職課程必修科目として授業の到達目標の5つのポイントを授業に積極的に参加し学習することにより、保育者としての表現活動のスキルを向上し、対象児の発達過程と関わり方についての基礎的知識を身に付けることができる。表現方法の多様性を理解し、自分以外の表現者の気持ちについて興味関心を持つことができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス シラバスを参考に授業の進め方や成績評価方法について説明する | | | |
| 第2回目 | 幼稚園教育要領における「表現」のねらいについて 保育所保育指針における「表現」のねらいについて | | | |
| 第3回目 | 領域「表現」と他の領域との関係について | | | |
| 第4回目 | 乳幼児の発達と表現 ①0～2歳児期の発達に現れる表現 ②3～6歳児期の発達に現れる表現 | | | |
| 第5回目 | ワークショップⅠ 「想像の世界を表現する」 ①おばけなんてないさ ②食いしん坊のおばけの子 | | | |
| 第6回目 | ワークショップⅡ 「数字、大小、表情を表現する」 パンダがいっぱい他 | | | |

| | | | |
|---|--|-----|--|
| 第7回目 | 保育の中の表現を支える環境づくりについて | | |
| 第8回目 | ワークショップⅢ 「見えないものを見せる」 ハンドサインの実践 | | |
| 第9回目 | 保育者が支える表現について ①子どもの表現 ②保育者も表現する | | |
| 第10回目 | コミュニケーションとしての表現 「まねる」「模倣するところから表現するところへ」 | | |
| 第11回目 | 表現を作り出す I まねっこ遊びから劇ごっこへ | | |
| 第12回目 | 表現を作り出す II 音楽と動き、つくることを楽しむ | | |
| 第13回目 | 表現を作り出す III イメージを実現する | | |
| 第14回目 | 表現を作り出す IV 劇ごっこの実演 | | |
| 第15回目 | まとめ | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 評価の領域 | | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | | 20% | 「表現」について興味や疑問点を持ち積極的に授業に参加しているかどうか。またグループ活動に際して人任せにするのではなく、自らの考えを持ち出すことができるかどうか等を総合的に判断する。 |
| レポート | | | |
| 調査報告書 | | 20% | 各々の教育実習先での幼児の表現活動について感じたことを教育実習終了後に具体的な例をレポートにて提出してもらう。 |
| 小テスト | | 20% | 各授業段階での理解度を図るために行う。到達目標①～④の内容を理解できているかが判断の基準となる |
| 中間・学期末試験 | | | |
| 発表内容(態度含む) | | 40% | 個々の役割をしっかりと果たしているか、またグループ全体としての完成度やまとまりを基準とし、自己採点も参考として評価する。 |
| その他 | | | |
| 教科書と参考図書 | | | |
| 教科書として「事例で学ぶ領域表現」、その他に授業中に随時プリントを配布。 | | | |
| 履修上の心得・ルール | | | |
| 保育ルームを使用しての授業のため、動ける服装で臨むことと、保育ルームを利用するにあたっての注意事項を守ってもらう。 | | | |